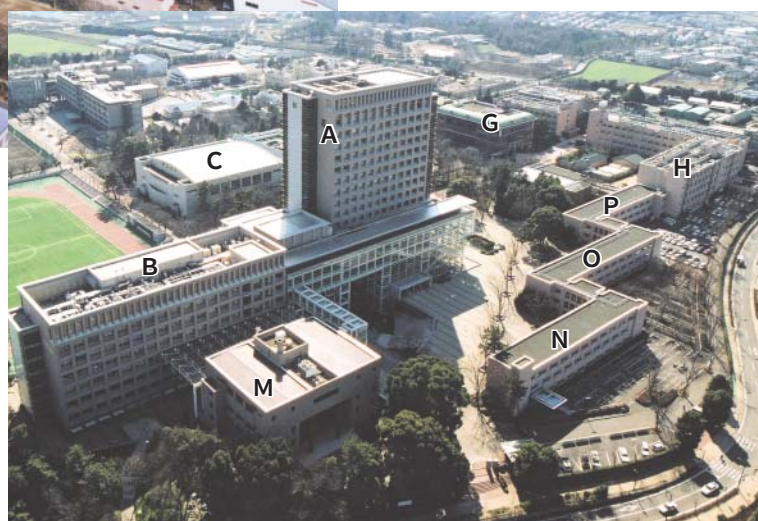




- A 本館
- B 12号館
- C 大講堂・体育館
- D 学生サークル棟 (S.U.B)
- E 学生食堂棟・NUSCホール
- F 10号館
- G 図書館
- H 4号館
- I 6号館
- J 7号館
- K 5号館 (短大棟)
- L 実験動物研究センター
- M 資料館
- N 1号館
- O 2号館
- P 3号館
- Q アニマルメディカルセンター (動物病院)
- R 海洋生物実験センター
- S 森林科学実験実習センター
- T 乳製品実験実習センター
- U 食品加工実習センター



《目 次》

平成16年度総会・懇親会.....2	拓友会 (国際地域開発学科).....8
改革の原点.....2	むつあい会 (短期大学部農学科).....9
学部校友会会則改正について.....3	生活環境学科校友会
農学校友会 (植物資源科学科).....4	(短期大学部生活環境学科).....9
紫友会 (農芸化学科).....4	応用生物科学学科校友会
角笛会 (獣医学科).....5	(応用生物科学科).....10
満喜葉会 (動物資源科学科).....5	平成15年度校友会会計決算および
いもづる会 (食品経済学科).....6	平成16年校友会会計予算.....10
あすなろ会 (森林資源科学科).....6	支部だより.....10
桜水会 (海洋生物資源科学科).....7	校友だより.....11
工学会 (生物環境工学科).....7	校友会役員・事務局名簿.....12
F T 会 (食品科学工学科).....8	

平成16年度総会・懇親会開催される

平成16年度総会・懇親会が7月10日（土）日本大学生物資源科学部本館3階中講堂1（総会）および食堂棟（懇親会）において開催されました。総会では本江事務局長の開会の辞に続き、茂澤 晃会長が挨拶され、校友会の今後の在り方、本部校友会の校友と準会員に対する運営方針等について説明がありました。議長選出では石川稔矩氏（植物）を選出し、議事へと移り、本江事務局長による平成15年度一般経過報告と正会員（81,813名）および準会員数（7,288名）等について報告があり、異議なく承認されました。平成15年度決算報告では千野会計担当より、平成15年度入学の学生1,842名分の校友会費が本部校友会から還付されたこと、および平成15年度収入22,489,651円、同支出17,863,587円に係わる内容について説明がなされた後、会計監査3名の代表として西山栄一氏から帳簿・領収書等について適切に処理されている旨の監査報告が行われました。これに対し、残高証明の取得、資産の確認月日、今後の決算処理方法等について審議された後、決算が承認されました。なお、決算に関する事務処理法について今後の改善を求める提案がありました。

また、平成16年度事業計画（本江事務局長）に続き予算案（千野会計担当）について説明があり、昨年変更された日本大学校友会会則に対応し、予算案・収入の部における「入会金」を「会費」へと名称変更するとともに、支出の部における事業費に「広報委員会・総務委員会・財務委員会」を新設すること、還付金からの分会交付金は本年5月1日現在の1年次と2年次在学学生数として算出することなどが提案され、承認されました。



懇親会に出席して下さった来賓の方々

学部校友会会則の改正については村田総務委員長より、一昨年の総会で提案された略称の廃止、校友会組織の活性化をはかるため新たに常任幹事を設けること、従来の会則における印刷ミスの訂正などが提案され、異議なく承認されました。（新会則はp3参照）

その他、過日設立申請のあった宮城県支部について、設立趣旨書および会則を基に、茂澤会長より説明があり、従来の支部に宮城県支部（支部長 昭和41年卒小野 隆氏、会員数430名）を加えることが提案され、承認されました。

村田副会長による閉会の辞の後、会場を学生食堂2階に移し、来賓、会員併せて約120名による懇親会が開催されました。

懇親会では本江事務局長の司会・進行のもと、茂澤会長挨拶に続き、ご来賓の方々より数多くのお祝辞を頂戴致しました。始めに日本大学副総長 小野沢工学部教授より、本学

はあらゆる分野を包含する総合大学であるが、各学部が分散して立地していることが弱点となっていたが、IT技術の利用により、その弱点が補われるようになったこと、および近年の競争的資金獲得に生物資源科学部は非常に良く対応している事などから、さらなる発展が期待できるとのお言葉を頂きました。また、本部校友会事務局 呉屋正盛氏より校友会の制度改革を機に校友諸氏の協力により、校友会館建設の推進を図ること、酒井学部次長より、生物資源科学部における教育・研究に関する現状と将来についてお話しした後、松橋学部事務局長の発声によって乾杯が行われました。さらに、司会より佐久間勇次、島津 正両会員が叙勲されたことが報告され、両会員に茂澤会長より記念品が贈呈されるなど、和やかな雰囲気のもと楽しいひとときを過ごしました。

改革の原点

日本大学生物資源科学部校友会

会長 茂澤 晃



新しい日本大学校友会が発足して、早や3年が経ちました。先に日本大学生物資源科学部校友会会報第55号にタイトルとして、日本大学校友会の抱負で記述し、その基本的改革の骨子について詳報しました。さらに第56号では、日本大学校友会の新機軸と題して、今後どの様に工夫してゆくか、可成り具体的に説明しました。然しながら、この改革には、率直にいうと学部校友会の運営に大きく影響し、これからの活動事態に憶測と危惧を呼び、一時混乱すら生じました。私達は、総務・財務・広報の三委員会が中枢となり、これが諸案について、再三再四英知を出し合い検討を重ね、最終的には、合同委員会で調整し諒承するところを決めて、幹事会上に提すべく果敢に活動が続けています。

ご承知の通り7月10日に、学部校友会の総

会・懇親会が開催されました。ご来賓として、大学から小野沢元久副総長・学部から酒井健夫次長・校友会本部から呉屋正盛校友課長はじめ、他学部校友会からは法学部・経済学部・商学部・通信教育部・医学部・歯学部・薬学部・理工学部・工学部・生産工学部の会長副会長のご臨席を得ました。また大きな組織母体からは、日本大学校友会会神奈川支部神谷光徳支部長・日本大学校友会東京都第四支部藤井昭三支部長はじめ、多数の恩師の先生方もご来賓としてご光臨頂き、お陰様で盛会裡に過ごすことが出来ました。その折、お心のこもったお祝詞を頂戴し厚くお礼申し上げます。なお、準会員のご協力を得ましたことにも、併せて深く感謝致します。また、7月11日に宮城県支部（小野隆会長）が、仙台ガーデンパレスで設立総会を開催され、誠に

喜ばしいことです。これからのご発展を祈念申し上げました。これで学部支部は9支部になりました。

前後しますが、改革という何ともかぶち毀してゆくという錯覚があります。諸問題の発生には、通常委員会で検討し、そこで集約したものを幹事会で諒解決定し、更に総会で承認と進むわけです。そして結束して、よりよい校友会創製に励まねばと思います。

常に思うことは、尊大な不言実行より、謙虚な有言実行が校友会の姿勢に相応しいと考えます。そして学部校友会は、一層組織を強固に母校の意を体し、支援するは勿論、校友一人一人のもつ共通認識を拡大してゆけば、右顧左眄することなく実りある改革の成果が得られると思います。

特に、新しい制度としての正会員・準会員の登録制が円滑に機能するようまず卒業生である校友が、率先して正会員になって頂くことを幾重にもお願いしたいと思います。

終わりに、校友各位の益々のご健勝ご活躍を心から祈念申し上げます。

（日本大学評議員・日本大学校友会副会長）

学部校友会会則改正について 一新しく常任幹事会を設置一

生物資源科学部校友会 総務委員会一同

I 概要（会則改正の必要性と検討経緯）

学部校友会では、日本大学校友会の改革に先がけて、準会員への校友会PR、正会員へのサービス向上、事務運営の円滑化等について熱心な討議を重ねて参りました。そして平成14年度、これらの学部校友会の抱える諸問題を整理し、検討、解決、改善していくために、幹事会において、総務、財務および広報の三つの運営委員会を立ち上げ、個々のテーマについて検討していくことが決定されました。検討していくなかで、これまで慣例的に取扱われていたことや、組織はできても明確な分掌事項が整理されていないことが円滑な校友会運営の大きな支障となっていることが判ってきました。具体的には分会長が慣例的に開催され、重要な審議等を行ってききましたが、会則にはその位置付けが一切記されていないこと、また、三つの運営委員会を立ち上げましたが、それぞれの分掌業務についての明確な細則や内規等が整理されていないこと、企画から運営まで学部教職員から構成される事務局まかせであること等、早急に改善していくことが必要であると共通認識し、改善策の検討を再出発するよう幹事会において合意形成がなされました。

種々の課題のなかで、総務委員会に諮問された事項は大きく以下の二点でありました。

- ① 校友会運営の円滑化についての施策
- ② ①に関する会則、諸規定、内規等の整備、改正（案）の作成

これらについて総務委員会では、平成15年12月の幹事会以来、各分会から選出された委員の御努力により精力的に委員会を重ね、平成16年3月末日に総務委員会の成案をまとめました。そして、その成案について財務、広報との合同委員会を開催、審議し、修正を加えて、平成16年6月の幹事会に図り、平成16年7月10日総会に上提し、原案どおり可決承認されました。

II 主な会則改正事項

校友会の運営を円滑にできるように、実質的な執行機関の役割を担う『常任幹事会』を新たに設置しました（組織図参照）。

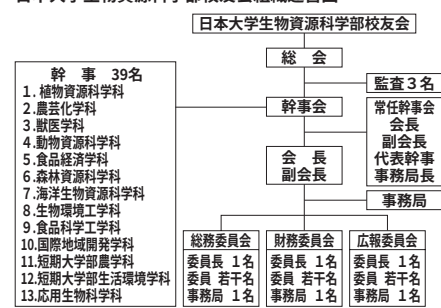
常任幹事会は、会長、副会長、代表幹事、および事務局長で構成し、校友会の中心的活動を行う組織としました。そして、副会長は各分会長が就任、会長、代表幹事は幹事会により互選すること等を、運営内規として整備しました。また、運営委員会の分掌事項につ

いても、明確にし、運営内規のなかに明文化しました。会則は以上のことに関することを主体に改正するとともに、正会員の定義についても、新旧学科名を全て網羅し、永久に全ての会員の卒業学科名を会則に残すことにしました。これらの改正主旨を御理解いただき添付した学部校友会会則に目を通していただければ幸いに思います。

III おわりに

常任幹事会の新設や、それに係わる会則改正は総会で可決承認されました。しかし、制度の改正に留まらずには机上の空論に終ることとまで変ならないことを心に期し、校友会の改革、運営の円滑化は緒についたと考え、今後、その機能を発揮させ効果をあげること、そして校友会の円滑な活動、活性化に向って総務委員会は更に努力していく所存であります。会員の皆様のより一層の御教示、御協力をお願いし、報告のむすびといたします。

日本大学生物資源科学部校友会組織運営図



日本大学生物資源科学部校友会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は日本大学生物資源科学部校友会と称する。
- 第2条 本会の事務局は神奈川県横浜市亀井野1866 日本大学生物資源科学部に置く。
- 第3条 本会は日本大学校友会の生物資源科学部で、会員相互の親睦と向上を図り、日本大学の興隆発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
 - I 会報の発行
 - II 会員名簿の作成
 - III その他本会の目的達成に必要な事業

第2章 分会および支部

- 第5条 本会は各学科に分会を置く。
- 第6条 分会に関する規定は別に定める。
- 第7条 支部は支部を置くことができる。
- 第8条 支部に関する規定は別に定める。

第3章 会員

- 第9条 本会は次におけるものをもって会員とする。
 - I 正会員 東京獣医学校・東京高等獣医学校・東京獣医畜産専門学校および東京獣医畜産大学の卒業生
日本大学法学部専門部拓殖科の卒業生
日本大学農学部専門部農業経済科の卒業生
日本大学農学部学科の卒業生
日本大学農学部農学科・農業経済学科・畜産学科・林学科および水産学科の卒業生
日本大学農獣医学部農学科・農芸化学科・獣医学科・畜産学科・食品経済学科・林学科・水産学科・農業工学科・食品製造工学科・食品工学科・拓殖学科および応用生物科学科の卒業生
日本大学生物資源科学部関係学科の卒業生
日本大学短期大学部農学科・生産教育研究所および生活環境科の卒業生
日本大学短期大学部農学科および生活環境学科の卒業生
日本大学大学院農学研究科・獣医学研究科・生物資源科学研究科の修了生
 - II 特別会員 日本大学生物資源科学部教職員および日本大学短期大学部農学科・生活環境学科教職員ならびに本会に功労があった者および正会員3名以上に推薦された者で幹事会の承認した者
 - III 準会員 日本大学生物資源科学部関係学科の在学および在籍した者
日本大学短期大学部農学科・生活環境学科の在学および在籍した者

第4章 会議

- 第8条 本会に総会、幹事会および常任幹事会を置く。
- 第9条 会議は会長が招集し、議長はその都度選出する。
- 第10条 総会は毎年一回これを開く。ただし必要に応じ臨時に開く。
- 第11条 幹事会は構成員数の三分の一をもって成立する。

- 第12条 幹事の三分の一以上の要請があったときは、会長は幹事会を開かなければならない。
- 第13条 常任幹事会は構成員数の過半数をもって成立する。
- 第14条 会議の議決は出席者の過半数による。

第5章 役員

- 第9条 会長 1名
副会長 若干名
代表幹事 若干名
幹事 各分会より3名
監査 3名
- 第10条 役員の任期は3年とする。ただし再任を妨げない。
- 第11条 補欠で就任した役員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第12条 役員は任期満了後も後任者の就任するまで、その任務を行うものとする。
- 第13条 以上の役員の他、名誉会長、顧問、相談役をおくことができる。
- 第14条 会長、副会長および代表幹事の選出方法は別に定める。
- 第15条 幹事は各分会毎に正会員中より選出し総会において承認を得る。
- 第16条 監査は総会において正会員中より選出する。
- 第17条 会長は本会を代表して会務を統括し、幹事会の決定に従ってその執行にあたる。
- 第18条 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長の職務を代行する。
- 第19条 会長・副会長・幹事は幹事会を組織し事業の執行にあたる。
- 第20条 常任幹事会は会長、副会長、代表幹事および事務局長をもって構成する。常任幹事会は本会事業の執行にあたり、事業内容を幹事会に報告し、承認を得る。
- 第21条 監査は本会の経理状況および業務の執行状況を監査し、意見を付して総会に報告しなければならない。

第6章 事務局

- 第12条 本会に事務局を置く。
- 第13条 事務局には事務局長を置く。事務局長は幹事会の承認を経て会長が任命する。
- 第14条 事務局長は会員中より若干の局員を任命しう。
- 第15条 事務局長は会議において会務を報告する。
- 第16条 事務局には専任の事務員をおくことができる。

第7章 委員会

- 第14条 本会の事業を運営するため必要があるときは幹事会の議を経て委員会をおくことができる。
- 第15条 委員会は幹事会をもって構成し、本会事業の効率的運営を遂行する。

第8章 会計

- 第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。
- 第16条 本会の経費は次の収入をもってこれにあてる。
 - I 入会金
 - II 会費
 - III 寄付金

- 第17条 IV その他
納入金は返却しない。

第9章 雑則

- 第18条 本会則の改正は幹事会ならびに総会の議を経なければならない。その決定にあたっては各会議において出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。
- 第19条 この会則に必要な細則・規定は幹事会の議決を経て会長がこれを定める。
- 第20条 本会則は昭和49年6月22日より施行する。
- 第21条 本会則は平成7年7月8日に一部改正する。
本会則は平成8年7月13日より新学部名を併記する。
本会則は平成14年7月13日に一部改正する。
本会則は平成16年7月10日に一部改正する。

日本大学生物資源科学部校友会分会規定

- 第1条 本会に次の分会を置く。
 - 1 植物資源科学科分会（農学校友会）
 - 2 農芸化学科分会（紫友会）
 - 3 獣医学科分会（角笛会）
 - 4 動物資源科学科分会（満喜葉会）
 - 5 食品経済科学科分会（いもづる会）
 - 6 森林資源科学科分会（あすなろ会）
 - 7 海洋生物資源科学科分会（桜水会）
 - 8 生物環境工科学科分会（工学会）
 - 9 食品科学工科学科分会（FT会）
 - 10 国際地域開発科学科分会（拓友会）
 - 11 短期大学部農学科分会（むつあい会）
 - 12 短期大学部生活環境科学科分会
 - 13 応用生物科学科分会
- 第2条 各分会に関する規定は各分会毎に別に定める。
- 第3条 本規定は昭和49年6月22日より施行する。
本規定は平成2年7月14日第12項を追加施行する。
本規定は平成4年7月11日第13項を追加施行する。
本規定は平成8年7月13日より新学科名を併記する。
本規定は平成16年7月10日より新学科名とする。

日本大学生物資源科学部校友会支部規定

- 第1条 支部は幹事会の議を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第2条 各支部に関する規定は本会則にのっとり、各支部毎に別に定める。
- 第3条 各支部は本校友会との連繫を保つ。
支部は必要に応じ、本幹事会の承認を得て、代表者を幹事会に出席させる事ができる。ただし、幹事会の構成員としない。
- 第4条 本規定は平成7年7月8日に一部改正する。
本規定は平成8年7月13日より新学部名を併記する。
本規定は平成16年7月10日より新学部名とする。

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局長 藤井 秀昭
E-mail: fujiaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成15年度総会・校友会創立50周年記念式典・祝賀会開催

平成15年10月12日(日)の13時より、湘南キャンパス新本館NUホールにて平成15年度の総会が行われ、引き続き創立50周年記念式典と祝賀会に移り、本館脇オープンシアターにての記念撮影、式典と祝賀会はNUBSホール(学生食堂3F)にて開催された。会場には25期齊藤和夫氏より寄贈コショウラン、57期細田麻希氏の卓上花が並び、校友や学部執行部、各分会長の来賓の諸氏を含め150名の出席のもとで盛大に挙行された。

楠元会長が校友会より創立50周年の記念として、植物資源科学科に絵画一点が贈呈された。11期青木隆夫画伯による世界遺産であるフランスの「モン・サン・ミッシェル」が描かれた絵画で、現在、12号館のエレベーターホールに飾られている。また、長きにわたり、校友会の運営に貢献された4期西鳥羽曙前会長、5期浅野明元副会長、7期宮浦敏磨元副会長、10期古川仁朗元副会長、3期高橋文次郎元庶務理事、7期石井賢治元庶務理事、11期坪木良雄元庶務理事、15期篠原正行元庶務理事と絵画寄贈の11期青木隆夫氏に記念品と感謝状が贈呈された。

来賓の方々のご祝辞、勝野武彦学科主任の挨拶、学科教員の紹介が行われた。引き続き、

祝賀会に入り、1期の横山芳男氏による乾杯に始まり、卒業後の大学発展に驚き、また再会に喜び、応援歌が披露され、盛会に終了された。出席の方々には、農学校友会創立50周年記念誌や記念品が渡された(詳細は農学校友会会報第5号を参照して下さい)。

平成16年度総会・懇親会開催

平成16年5月15日(土)に第1会議室にて総会が開催された。主な議題は1)平成15年度事業一般経過報告(創立50周年記念事業)と決算報告2)平成16年度事業計画と予算案が審議され、満場一致で承認された。その後、本館カフェテリアにて懇親会が行われ、盛会裏に終了した。

学科の近況

平成10年より応用昆虫学研究室の福原敏彦

教授は今年9月に定年退職となりました。先生には学科の発展のためにご尽力下さり、今後共ご健康で活躍されますことをお祈りします。

今年4月より、遺伝育種学研究室の穴戸理恵子助手が専任講師に昇格されました。益々のご活躍が期待されます。

台湾国立中興大学との国際交流セミナーが6月21日～7月5日の15日間本学科で開催され、研修学生(20名)と教員(3名)が参加された。講義、見学、農場実習と多忙な日々でしたが成功裏に終了しました。

<叙勲の授与>
農学科3期の島津正(元農獣医学部教授)氏は、これまでのご功績に対して春の叙勲で「瑞宝中綬章」を授与されました。今後共ご健勝にてご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。(井上弘明)



東京都中央卸売市場大田市場の見学風景(台湾国立中興大学生)



寄贈の絵画(青木隆夫画伯)

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 土壌学研究室
0466-84-3953 事務局長 隅田 裕明
E-mail: hsumida@brs.nihon-u.ac.jp

平成16年度総会・紫友会創立50周年記念祝賀会

平成16年11月21日(日)に総会・紫友会創立50周年記念祝賀会を新高輪プリンスホテル(東京都、品川区)にて午後4時から開催することになりましたので、ご案内申し上げます。多くの校友の皆様のご出席をお待ちしております。紫友会事務局では創立50周年記念事業として、農芸化学科への記念品として学生実験室AVシステムの寄贈、記念誌の発行を予定しております。

平成15年度総会・懇親会を開催

平成15年度の紫友会総会が平成15年10月25日、藤沢市内(銀座アスター)にて開催されました。総会では茂澤晃会長の挨拶の後、平成14年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに平成15年度の事業計画、予算案について厳正に審議がなされ、いずれも承認されました。総会の後、多数の来賓と会員が出席し懇親会が盛大に行われました。懇親会には紫友会平成15年度(第10回)奨学生が招待され、

懇親会の席上で表彰が行われました。

平成16年度第11回紫友会奨学生決定

紫友会40周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第11回生9名が、同奨学生選考委員会(有賀豊彦委員長)により厳正に選考され下記のように決定いたしました。第11回紫友会奨学生の表彰は本年11月の紫友会総会・創立50周年記念祝賀会時に行われる予定です。

2年次 込山雅人、齊藤はるか、田中理恵
3年次 笹井洋輔、本間美雪、松井理恵
4年次 蛭田温子、堀越律子、箕浦佳代
(敬称略)

農芸化学科の近況

農芸化学科は本年4月に新入生148名(男子:73名、女子:75名)を迎え、4年次まで総計605名(男子:289名、女子:316名)の学生が在籍しております。学科主任に有賀豊彦教授、生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻主任に奥忠武教授が就任されております。また学部執行部の学務担当に長谷川功教授が就任され、活躍されております。本年4月1日付で生物有機化学研究室の河内隆先生が専任講師に昇格されました。また、実験準備室の中川ゆかり副手は本年3月で退職され、後任として本年3月に本学食品科学工学

科を卒業された小野田ゆかり氏が採用され活躍しております。(荻原 淳)



小野田ゆかり副手

角 笛 会

◇ 獣医学科 ◇

連絡先 獣医公衆衛生学研究室
0466-84-3636 事務局長 丸山 総一
E-mail : tsuno-2@brs.nihon-u.ac.jp

平成16年度角笛会総会開催



平成16年7月3日(土)、日本大学湘南校舎で、本年度の角笛会総会が開催されました。今回は、新たな試みとして、午前中は第42回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。角笛会の幹事会、総会ではまず事務局より提出した平成15年度の事業報告、会計報告が、月瀬 東、山村穂積、鳥海 弘監事の監査報告を受けた後、承認されました。続いて平成16年度事業計画案、同予算案が審議され、順当に承認、成立致しました。平成15年度では総計16回、各地方支部会、同僚校友会等に大学教員、角笛会執行部を派遣致しました。また、角笛会功労者として、長年会長として本会の発展にご尽力いただいた日比野次郎先生(昭14)が満場一致で承認され、総会終了後に記念品とともに表彰状が授与されました。今回は、ANMEC(日本大学動物病院)支援基金授与者の該当者はありませんでした。会員からは、角笛会会則の改正の進捗状況に関する質問があり、今年度中にも改正素案を作成することを確認いたしました。

角笛会の教育講演として、桑原正人先生による「骨疾患のエックス線画像診断からみた

治療の決定」が1012教室で開催されました。新支部長の就任に伴う幹事候補として山川寛行氏(徳島、昭32)、新里康彦氏(沖縄、昭50)が、クラス幹事として瀧澤文雄氏(平15)、平野悠子氏(平15)がそれぞれ新たに承認されました。

午後4時からNUホール3階にて催された懇親会には、茂澤生物資源科学部校友会会長をはじめ同僚校友会の来賓の方々、獣医学科教員を含め約80名に参会いただきました。中川会長の挨拶に始まり、この春に瑞宝中綬章をお受けになった佐久間勇次名誉教授(写真)の乾杯の後、和やかな雰囲気の中に、懇親会は進行し、会場のあちこちで談笑の輪ができていました。(事務局長 丸山総一)

獣医学科の近況

○獣医師国家試験

第55回獣医師国家試験の結果が平成16年3月17日に発表されました。日本大学獣医学科からは新卒者142人が受験し、127人が合格しました。合格率は89.4%で(全国平均93.0%)、昨年度の合格率を大きく上回りました。

○表彰、受賞

卒業生の井上佐和子さんが優等賞、武井昭紘さん、守屋 明さんが学部長賞、朝比奈由佳さんが日本獣医師会会長賞をそれぞれ受賞されました。角笛会会長賞は、尾身衛祐さん、大滝奈々さんに授与されました。

また、教員では加納 聖先生(獣医臨床病理学研究室)が学部長賞を受賞されました。

○博士(獣医学)の学位取得者

今年度、大学院博士課程を修了し博士(獣医学)を取得された方は、北川勝人氏(小動

物中枢神経系疾患の臨床疫学的研究)、杉澤 仁氏(ウシ乳汁中の好中球活性化とその作用機序の解明)、論文提出により博士(獣医学)を取得された方は、鳥海 弘氏(豚卵巣疾患の臨床疫学的研究)です。

○卒業・新入学

本年度も145名の学生が獣医学科を卒業し、うち127名が獣医師として社会に巣立ちました。また、新入生は140名(うち女子は66名)でした。

○退職

福田陽一先生(獣医微生物学)、村杉栄治先生(獣医第二内科学)、上床和弘先生(獣医伝染病学)、中村遊香先生(獣医内科学)、田中 智子さん(獣医生化学)がご退職されました。

○昇格

佐藤常男先生(獣医病理学)、津曲茂久先生(獣医臨床繁殖学)が教授に、渋谷 久先生(獣医病理学)が助教授に、大谷 功先生(獣医生理学)、鈴木一由先生(獣医薬理学)、椎橋 孝先生(医動物学)が講師に、それぞれ昇格されました。

○新任

泉對 博教授(獣医伝染病学)が着任されました。また、臨時職員として高橋 奈美子さんが学科事務室に配属されました。

○訃報

平成10年から14年まで本学で教授を勤められました竹内 啓先生(総合臨床獣医学研究室)が、平成16年7月12日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(文責：椎橋 孝)



泉對博教授 高橋奈美子



満 喜 葉 会

◇ 動物資源科学科 ◇

連絡先 動物生体機構学研究室
0466-84-3790 事務局長 遠藤 克
E-mail : tendou@brs.nihon-u.ac.jp

満喜葉会役員会、新入生歓迎会開催

本年度の満喜葉会役員会は、平成16年5月29日(土)午後1時より日本大学生物資源科学部資料館2階第一会議室にて開催されました。役員会には内田駿一会長、ならびに遠藤克事務局長の挨拶の後、会則に伴い内田会長を議長として議事に移り、平成15年度事業報告ならびに決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ承認されました。続いて、平成16年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、審議の後、承認されました。

役員会閉会の後、午後4時より場所を食堂棟2階に移し、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会が学科・満喜葉会の協賛で、学科学術研究部の協力を得て盛大に行われました。

学科の近況

【新入生、教育】 本年度は167名の新入生が動物資源科学科に入学しました。例年通り、本年度の新入生も女子の数が100名を超え、学部の中で最も女子学生の多い学科となっています。

ます。

現研究室体制が始まって3年余り経過しました。現在(平成16年8月)の学科研究室および所属教員は以下の通りです。また下記9研究室に加え、川路利和助教授が資源動物管理理学研究室に所属しています。

- ・動物育種学(泉水直人教授、山室裕助教授)
- ・動物生殖学(甲斐蔵教授、園田豊専任講師、成島玲子副手)
- ・動物栄養科学(阿部亮教授、長沼恵理副手)
- ・飼養学(小牧弘教授)
- ・生産環境学(塩谷正勝助教授)
- ・草地学(中西五十教授、丹羽美次助教授)
- ・畜産食品科学(伊藤敏敏教授、宮原見義助教授、増田哲也助教授)
- ・畜産経営学(小林信一教授、小泉聖一助教授)
- ・野生動物学(村田浩一教授、岩佐真宏専任講師)

学科名が変更され9年余りが経過し、当学科を志望する受験生からも「動物全般を学べる学科」とのイメージが定着して来た感があります。年々18歳人口が減り続け、多くの大学が受験者数を大幅に減らすなか、世の中の「動物人気」からか、当学科の志願者数の推移はここ数年の一般入試でもA試験(本校入試)、B試験(地方入試)、推薦入試(指定校、公募制)を含め1000名前後を維持しており、健闘していると言えます。しかし、今後は学科教育体系や授業内容を社会、受験生のニー

ズに沿うような抜本的変革を迫られるのは必至であると思われます。また、高等学校教育において昨年度から始まった新教育体制に対応できる学科カリキュラムの改編やそれに伴う教員体制の本質的な将来計画など、きわめて困難な問題が山積しております。会員の皆様の温かなご支援を宜しくお願い致します。

【新任】 平成16年4月1日付けで、岩佐真宏専任講師と長沼恵理副手が採用されました。岩佐専任講師は、平成6年弘前大学理学部を卒業後、同大学大学院修士課程、北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程を修了、同大学客員研究員を経て本学科に着任されました。現在は野生動物学研究室に所属し、動物生態学等を担当されています。また、長沼副手は、平成15年3月本学応用生物科学科を卒業後、昨年度はアルバイトとして学科事務をお手伝い頂いておりましたが、本年度から正式に副手として採用されました。現在は、動物栄養科学研究室に所属し、学科事務の他、大学院生物資源生産科学専攻の事務も担当されています。



岩佐真宏 専任講師



長沼恵理 副手

【昇格】 平成16年4月1日付けで、村田浩一助教授が教授に昇格されました(野生動物学研究室)。(山室 裕)

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品企業分析論研究室
0466-84-3410 事務局長 斎藤 武至
E-mail: tsaito@brs.nihon-u.ac.jp

平成16年度幹事会・懇親会を開催

平成16年度の幹事会・懇親会が6月5日(土)に開催されました。今年は2年に一度の全会員を対象とした幹事会・懇親会ということから、小田急ホテルセンチュリー相模大野で行いました。幹事会では平成15年度の活動・会計報告と16年度の活動計画、予算案などをはじめ、樋口貞三先生の名誉会員への推薦及び事務局長経験者の伊豫軍記先生と上野恒雄先生への感謝状贈呈に関する議題が、満場一致で承認されました。懇親会は多数の来賓者と会員にご出席頂き、学生幹事を含め80余名の参加者により盛大に行われました。

今、学科では

【**新入生**】今春、食品経済学科は女子学生56名を含む180名の新入生を迎え、恒例の新入生研修会は4月24日(土)に実施しました。研修会は新入生の相互交流の促進と、教職員および上級生とのコミュニケーションを図るために「横浜さとうのふるさと」「キリンビバレッジ」「トワイニー横浜」の3施設の見学と上級生主催の抽選会が行われました。また、猛暑のなかで5月29日(土)に開催された「スポーツフェスタ2004」では優勝し、7月上旬



に行った優勝祝賀会には1年次学生と教職員の合わせて100名近くが集い、1年生の団結の強さを知ることができました。

【**教育懇談会**】7月30日(金)のオープンキャンパスで、隔年に開催される学部主催の教育懇談会には、遠方から3名のOB教員が出席されました。そのあと行った学科広報係との懇談会では、これからの大学入試制度のあり方、私鉄の相互乗り入れに伴う遠距離通学の可能性、積極的な広報活動の必要性など、少子化時代の大学運営について、貴重な提案を頂きました。

【**食品ビジネス特別講義**】今年で13年目を迎える3年次開講の食品ビジネス特別講義は、9月の3日間、「コープかながわの理念と事業戦略」と題して、生活協同組合コープかながわ理事長小林勉氏による集中講義と事業施設の見学が行われました。

学内では、生活協同組合の理念、コープ商



品の歴史と現状、コープの環境活動などをテーマにした興味深い内容の講義が行われました。

【**人事**】学科発展のためにご尽力頂きました、樋口貞三先生、上野恒雄先生、前田由美副手の3名が本年3月末日をもって退職され、また伊豫軍記先生が7月6日に退職されました。新任として大賀圭治先生(前東京大学大学院農学生命科学研究科教授)、檜山佳那子副手(平成16年3月本学部生物環境工学科卒業)が着任されました。学科のより一層の充実・発展を期待したい。また、磯田みゆき先生は日本大学長期海外派遣研究員として、平成16年9月2日から1年間、ドイツに留学されています。

【学科Home Page】

<http://www.brs.nihon-u.ac.jp/webadmin/DFE.html> (木島 実)

あすなろ会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3675 事務局長 石垣 逸朗
E-mail: i-ishigaki@brs.nihon-u.ac.jp

平成15年度あすなろ会総会 および懇親会を開催

平成15年10月18日(土)午後3時半より湘南キャンパス資料館第一会議室において、平成15年度あすなろ会総会が開催されました。赤塚会長を議長に選出の後、石垣事務局長より、平成13年度、14年度事業報告、ならびに会計決算報告が行われました。会計監査報告の後、引き続き、平成15年度および16年度事業計画案、予算案の審議が行われ、承認されました。さらに、平成15年7月19日に行われたあすなろ会理事会で提案承認されていた、第1期の河村光幹氏、第51期の齋藤尚志氏と大河和夏氏、第52期の小川結希氏と佐伯朋哉氏を新理事とする件が、総会においても承認されました。また、あすなろ会会長を49年間に亘って勤められた故鹿野前会長に対し、長年のご活躍に対するお礼と感謝の意を表して、感謝状と記念品をお贈りすることが提案、了承されました。全ての議事終了後、会場を本館カフェテラスに移し多数の来賓と会員が出席して懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中、閉会となりました。

平成15年度あすなろ会会長賞受賞者

平成15年度あすなろ会会長賞に下記の6名が決定し、平成16年3月23日ロイヤルパークホ



テルニッコーにおいて行われた卒業記念パーティーにて、表彰状と記念品が赤塚あすなろ会会長から贈呈されました。この賞は各ゼミより一名ずつ成績優秀で、しかも、本学科関連の分野に就職または進学した者に贈られます。

田中万里子(森林・緑地造成ゼミ 研究生)
長谷川康二(林業経営ゼミ、財団法人休暇村協会)
石井 晃子(木材科学・工学ゼミ、長永スポーツ工業(株))
藤井美沙子(森林・緑地保全ゼミ、桐生第一高等学校教諭)
稲葉 治彦(森林動物ゼミ、(株)住居時間)
小林 龍雄(住宅・流通ゼミ、日本大学大学院進学)

学科の近況

【**新入生**】今春、森林資源科学科では131名(男子89名、女子42名)の新入生を迎えました。恒例の学科新入生歓迎会は学部スポーツフェスタの終了後に行われ、あすなろ会から

飲み物の差し入れもあって大いに盛り上がり、新入生相互および教員との親睦を深めるよい機会となりました。

【**オープンキャンパス**】近年、地球環境に対する意識の高まりや、バイオマスエネルギーに対する関心の高まりからか、7月30日、31日に開催されたオープンキャンパスでは、森林資源科学科の研究室や説明ブースを訪れる受験生の数が昨年を大幅に上回りました。本年の特徴としては、受験生と共に保護者が多く来訪されたことです。そして、何を学ぶかばかりでなく、卒業後どのような仕事に就くことができるかが大きな関心事になっておりました。このようなことから、出口である就職先の開拓に学科としてより一層努める必要があることを痛感いたしました。会員の皆様にも益々のお力添えをお願いいたします。

【**人 事**】4年間に亘り学科のためにご尽力いただいた益田好恵副手が本年3月31日をもって退職され、後任として本年3月に本学部海洋資源科学科を卒業された畠中聖奈副手が着任されました。



畠中聖奈
副手

【**訃 報**】学科の発展に多大な貢献をされ、さらに、あすなろ会(旧林学科校友会)の初代事務局長を勤められた林学科(現森林資源科学科)元教授の加藤正義先生が、本年6月23日にご逝去されました。享年90歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(宮野 則彦)

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋生物資源管理学研究室
0466-84-3689 事務局長 吉原 喜好
E-mail : yoshihara@brs.nihon-u.ac.jp

平成16年度桜水会総会・懇親会を開催

来る7月17日(土)午後3時より湘南キャンパス10号館において平成16年度理事会・代議員会が、また同4時から平成16年度総会が開催され、平成15年度事業報告、決算報告、監査報告、平成16年度事業計画、予算報告などが行われました(出席者32名)。次いで会場を食堂棟3階(NUホール)に移して懇親会が行われました。今回から準会員である在校生を懇親会に招待することとなり、4年次学生33名が参加しました。会場では先輩たちの話に熱心に耳を傾ける光景が至る所で見られ、この試みは大変好評でした。

新カリキュラムが導入される

今年度入学生から新カリキュラムが導入されることとなりました。新カリキュラムの特徴としては、海洋分野における科学の発展に対応して開講実験数が従来の14から17に増えたことです。また新入生を対象に、下田臨海実験所において5月～6月に3泊4日の4班編制で実施される海洋生物資源科学基礎実験Iを海洋基礎実習と改めました。この科目は、海難事故防止に関する講義、手こぎボート実



海洋基礎実習



糸井史朗助手

習、プランクトン採集および観察、調査船「すぎき」による海洋観測、沖釣り・磯釣りによる魚類の採集と同定、磯生物の採集と同定、魚類の解剖と観察などの実習から構成されており、本年度も学生に大変好評でした。またこの実習は学生の連帯を強めるという効果もあり、5月29日(土)に実施された運動会(スポーツフェスタ2004)でも好成績(総合3位)を収めることができました。

このほか、日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定審査準備の一環として3年次より2コース(「専修コース」および「広域教育コース」)が設定されました。

人 事

本年4月より糸井 史朗助手(海洋資源育成環境学研究室)が着任しました。先生は平成10年3月に水産学科(現、海洋生物資源科学科)を卒業され、直ちに東京大学大学院農学生命科学研究科に進学され、昨春修了(博士(農学))された後、独立行政法人水産総

合研究センター中央水産研究所重点研究支援協力員を経て、本学に採用となりました。先生の今後のご活躍が期待されます。また小島隆人助教授は本年3月より1年間日本大学海外派遣研究員(長期)としてフィリピン大学で研究を遂行中です。1年間の多大な経験が帰国後の教育研究に反映され、一層飛躍されることが望まれます。さらに本学短期大学部農学科安齋 寛先生(27期卒)は、今春教授に昇格されました。先生は文部科学省21世紀COEプログラムの構成メンバーの一人であり、今後益々のご発展が期待されます。

名誉教授の授与

本学元教授 出口吉昭先生(1期卒)は昨秋、日本大学より名誉教授の称号を授与されました。先生は今春まで本学短期大学(三島校舎)で教鞭を執られるなど、極めてご健健です。先生の今後益々のご健勝をお祈り致します。(杉田 治男)

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 地域環境計測学研究室
0466-84-3694 (FAX兼用) 事務局長 斎藤公三
E-mail : ksaito@brs.nihon-u.ac.jp

工学会創立40周年記念祝賀会開催される

昭和38年6月に発足以来、工学会は40周年を迎え、その記念として祝賀会が平成15年11月29日(土)、品川プリンスホテル大津の間にて開催された。祝賀会に先立ち、16時より彦根の間にて総会並びに記念講演会が行われた。総会では村田会長の挨拶、議長選出が行われた後、会則の一部変更等が議題として提案され満場一致で承認された。続いての記念講

演会では工藤謙一氏の司会のもとに昨年の3月に博士(工学)の学位を取得された3期生の吉川宏一氏が『大規模ショッピングセンター建設に伴うビオトープガーデンの造成』というテーマで環境のための造成について講演していただいた。また、1期生の八木 茂氏は『未来にむかって』というテーマで工学会の秘話を中心に今後への夢と挑戦を講演していただいた。この後、18時より記念祝賀会が開催された。会では酒川副会長の司会のもとに村田会長、加島 豊日本大学校友会副会長、茂沢 泉学部校友会会長、佐々木恵彦学部長の順で祝辞の言葉を頂き、西島羽曙氏の音頭で乾杯に入った。宴たけなわの頃、スライドを用いた湘南校舎についての紹介をする時間も設けられ、すばらしくなった学部にはほとんどのOBが見入っていたのが印象的であった。

会では約130名ほどの方が出席されたが、夫人同伴で出席されたOBも10名近くおり、盛況のうちに閉会となった。この後、同窓同士で2次会を楽しまれた会員の方もかなりおられたようであった。なお、この日は準会員である学科の3年生および4年生約20名が招待されていた。彼らには工学会の意義とその活動を理解する良い機会になったと思われる。

学科の動向

本学科はJABEEの審査を昨年受け、認定を得ることができました。会員の御協力に感謝申し上げます。

本年3月、岡本雅美教授が定年のため退職されました。長い間ご苦労様でした。これからもご健勝で活躍されますことを願う次第であります。

本年4月、都 甲洙先生が助手として生物生産流通施設学研究室に着任されました。先生は韓国の順天大学農学部農業機械学科を卒業後、本学大学院農学研究科博士課程を修了された方です。

また本年4月、笹田勝寛先生が専任講師に、糸長浩司先生が教授に昇格されました。両先生にもさらなる今後のご活躍をお願いいたします。(川西啓文)



工学会創立40周年記念祝賀会

F T 会

◇食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail: takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

○F T 会理事会開催

F T 会理事会が平成16年4月10日午後4時より本学湘南校舎食品科学工学科会議室において行われました。理事会では平成15年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成16年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○平成15年度F T 会総会開催

平成16年度F T 会総会が平成16年6月12日午後3時より本学湘南校舎において行われました。総会は関村具由会長（第1期生）の挨拶で開会し、平成15年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成16年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○準会員（在学生）への活動

平成15年10月21日にF T 会補助のもと、3年生と教員との懇親会が盛大に行われました。また、平成16年3月25日には第39期学生の中から学業および人物優秀な学生へ贈られるF T 会長賞を授与いたしました。平成15年度は西山聡さんが選ばれ、金一封が贈られました。



平成16年度新入生（スポーツフェスタにて）

した。最後に、平成16年5月29日に行われたスポーツフェスタでは参加した新入生へ飲料物を補助いたしました。なお、成績は優勝まであと一歩でしたが、スポーツフェスタはたいへん盛り上がりしました。

学科の近況

○退職

平成16年3月31日付で香取佳子副手が退職されました。香取さんは平成12年から食品科学工学科で勤務され、F T 会事務、学科事務や学生実験など、多くの面でご尽力頂きました。今後ともご健勝でご活躍されることをお祈りいたします。

○新任

山形一雄教授が平成16年4月1日付で静岡県立大学食品栄養科学部より着任されました。山形先生は食品工学科の11期卒業で、研究室は食品衛生化学研究室（旧6研、旧食品分析学研究室）に所属されます。

○昇格

細野朗先生（食品機能化学研究室）が平成16年4月1日付で専任講師に昇格されました。

事務局より

会員の方で、住所変更や改姓などがございましたら、ご面倒と思いますが、ぜひ事務局までお知らせ下さい。（阿部 申）

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営研究室
03-3421-6437 事務局長 早川 治
E-mail: osamn@ca.mbn.or.jp

平成16年度拓友会総会

平成16年6月19日 日本大学生物資源科学部13階において平成16年度拓友会総会・懇親会が開かれました。まず、内田会長より挨拶があり、井上氏（18期）を議長に選出し、議事に入りました。

第1議題は平成15年度事業報告の件で、(1)総会開催 平成15年12月6日、日本大学生物資源科学部で開催、(2)懇親会開催 同日六会日大前「和民」にて開催、(3)幹事会開催 平成15年11月29日日本大学生資学部で開催、(4)名簿の整理、(5)宮崎賞・拓友賞の授与 宮崎賞：該当者なし 拓友賞：山田智英君、(6)卒業生への記念品授与 男子学生：タイピン 女子学生：スカーフ留めの報告が行われ、承認されました。

行われ、承認されました。

第2議題は平成15年度決算についての報告があり、続いて会計監査より、正常との監査報告があり、事業について了承、承認されました。

第3議題は平成16年度事業計画の件で、(1)総会・懇親会の開催 平成16年6月19日 日本大学生資学部、(2)幹事会の開催 第1回幹事会 平成16年6月12日(土) 日本大学生資学部、第2回 幹事会 平成17年3月5日(土) 日本大学生資学部、(3)名簿の整理、(4)「拓友会会報」第27号の発行、平成16年5月、(5)宮崎賞・拓友賞の授与、(6)ホームページの開設 会報の公開、会員名刺の公開ページ、総会開催通知 等の事業計画について了承、承認されました。

第4議題は平成16年度予算が上程され、16年度事業運営に必要な各費目ごとの予算が審議され、討議の結果了承され、承認されました。最後に谷地副会長から閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

海外研修報告

総会終了後、懇親会までの間、学生による海外研修報告が行われました。

今年度は増見ゼミの齊藤君、稲川君によるフィリピン調査の報告でした。

懇親会

懇親会は内田会長の挨拶にはじまり、近藤顧問の乾杯の発声で懇親に移り、参加者全員



拓友賞の山田君



内田会長挨拶

の一言の挨拶がありました。なお、今年度から学生の海外研修報告を入れることになったため、各ゼミから二人ずつの代表が参加し、ゼミでどんなことをしているのかとか、将来の抱負を語るなどOBとの交流に花を咲かせていました。

拓友賞・宮崎賞

拓友賞は平成15年度卒業生では山田智英君が選ばれました。宮崎賞は平成16年度には該当者がありませんでした。

学科の動き

〔新任〕

水野 正巳教授 京都大学大学院終了後、農水省入省、農業総合研究所に勤務。英国ケンブリッジ大学大学院を修了され、政策研究調査官で退官。国際文化論他を担当されます。

〔昇格〕

増見 国弘先生が助教授から教授に昇格されました。

〔退任〕

嘉数 啓教授 国際経済学等を担当。琉球大学副学長になられたため、退任されました。（緒方 行廣）



学生による海外研修報告

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 環境情報工学研究室
0466-84-3746 事務局長 青山 友雄
E-mail : aoyama@brs.nihon-u.ac.jp

総会・懇親会の開催

平成16年度むつあい会総会は、平成16年6月12日(土)15時より旧本館2階大会議室において開催されました。

総会は富沢寿樹会長の挨拶で始まり、天野六江(4期)を議長に選出して議事に入りました。事務局が平成15年度一般経過報告、富沢会長から補足説明と事業の詳細についての報告がなされ、承認されました。続いて平成15年度会計報告(滝沢章監査による監査報告を含む)と、平成16年度会計予算案の審議に入り、予算通り承認されました。引き続き、むつあい会50周年記念行事計画案が審議され、原案が承認されました。

懇親会は17時より食堂棟2階の教職員食堂で開催。百澤泉校友会会長、本江一郎校友会事務局、河野英一短期大学部次長、校友会11分会長(または代理)および農学科関係教職員のご臨席とむつあい会準会員10名の参加を得て、会員相互の懇談と交流が続く中、19時にお開きとなりました。

むつあい会50周年記念行事概略

- 1) 開催日時：平成17年(2005年)
10月22日(土)午後3時

- 2) 開催会場：日本大学生物資源科学部
食堂棟3階バンケットホール
- 3) 開催内容：式典(総会)・祝賀会を開催
- 4) 記念事業：50周年記念誌発行、会員の住所録更新、功労者の表彰
アトラクション、参加者全員へのプレゼントなど

以上が記念行事計画の概略です。追って、会員の皆様方には、ご案内を差し上げる手配になっております。同期、先輩、後輩をお誘いあわせのうえ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

学科の近況

在籍学生数

4月に58名(女子34名、男子22名)の新入生を迎えました。現在2年生は59名(女子36名、男子23名)で合計118名の準会員が在籍しています。

卒業生の進路

平成16年3月に57名(52期)が卒業して正会員となりました。卒業生の進路は編入学が31名(生物資源科学部へ23名、他大学は8名)、専門学校8名、就職は9名、その他9名でした。

昇格

安齋 寛助教授は本年度4月に教授に昇格されました。今後益々のご活躍が期待されます。

研究室の構成

武田恭明教授(応用花学研究室)、渡辺慶一教授(植物資源利用学研究室)、青山友雄教授(環境情報工学研究室)、寺澤輝雄教授



(植物生態学研究室)、浅野紘臣教授(環境生態学研究室)、安齋寛教授(応用生物化学研究室)、新町文絵専任講師(植物機能開発学研究室)、原田晶子副手(実験準備室)、以上7研究室1準備室、合計8名の教職員で構成されています。

事務局より

原稿の募集：50周年記念誌の原稿を広く会員のみならず募集しております。学生時代の思い出や体験、社会人になっての体験、人生経験、わが家の経営、地域人として、その他、何でも結構です。字数は500字～800字以内。体裁は自由です。奮って応募下さいませようお願い申し上げます。

原稿問い合わせ：〒252-8510 藤沢市亀井野
1866 日本大学短期大学部

むつあい会事務局 会報編集幹事 寺澤輝雄
ホームページ

最新の研究室の活動ぶりなど以下のアドレスで公開しております。ぜひご覧ください。

<http://www.jha.brs.nihon-u.ac.jp/>

(青山 友雄)

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 環境科学研究室
0466-84-3750 事務局長 飯塚 統
E-mail : kaken@jha.brs.nihon-u.ac.jp

2003年度校友会総会・懇親会の開催

2003年度の総会・懇親会は、11月13日(木)午後6時30分より渋谷クロスタワーのスカイレストランオスロにおいて開催されました。31階からの美しい夜景を眺めながら、近況報告や昔話に興じる光景が会場のあちらこちらで見られ、楽しいひと時を過ごすことができました。なお懇親会では恒例のビンゴゲームのほか、本学科卒業生でシンガーソングライター

ーとして活躍しているてつろうさんによる弾き語りが行われました。てつろうさんには昨年歌っていただきましたが、今回もぜひ歌を聞きたいとの要望が多く、コンサートを間近にひかえている忙しい中、スケジュールをやりくりして参加していただきました。仲間たちがさまざまな分野で活躍している姿を目の当たりにするのは、やはりうれしいことで、また学生たちの励みにもなることでしよう。

学科の近況

卒業生

2004年3月に112名が無事卒業しました。卒業後の進路は、生物資源科学部編入49名、他大学編入12名、専門学校8名、就職14名、その他はアルバイト・家事などでした。進学

は言うに及ばず、就職についても、鶴屋吉信、中村屋、埼玉中部農業共済組合、はまぎん事務センター、第一生命情報システムなど、堅実な所や短大で学んだ事が活かせる企業に進んでおり、確実に進路実現を果たしています。やはり短期決戦という短大の性格のためか、学生のモチベーションの高さがこのような好結果を生んでいるのでしょう。

在学生

本年度の入試は昨年度と同

じく、1.7倍の倍率の中、4月には104名の新入生が入学しました。生活環境学科としては2年生と合わせて220名の学生が在籍しています。なお今年の入学生は男子32名、女子72名とまだ女子学生の優位が続いていますが、5月29日に本学グラウンドで行われたスポーツフェスタの綱引き部門で一位になるなど、男子学生も数少ないながら、しっかりと存在感を示しています。

退職

長年学生と教員の橋渡し役としてご尽力いただいた高橋充副手が退職されました。これからは家庭に入り、子育てに専念されるそうです。学生が気軽に出入りし、いつもにぎやかだった準備室のような、明るいご家庭を築かれることをお祈りします。

新任

高橋充副手の退任に伴い小泉郁子副手が採用されました。若さを武器として、積極的に学生と関わっていくなど、これからの活躍に期待しています。

事務局より

今年の総会・懇親会は11月13日に横浜中華街の萬珍楼において実施いたします。飯塚先生をはじめ諸先生方も皆様にお会いすることを楽しみにしておりますので、ご友人とお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

会員の方々に住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までメールかお葉書にてご一報ください。(蒲原 義明)



小泉郁子
副手



応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究室
0466-84-3700 事務局長 司馬 肇
E-mail: chang@brs.nihon-u.ac.jp

応用生物科学科の近況

在籍：現在応用生物科学科の在籍学生数は578名（男子325名、女子253名）で、学年別では、4年生140名、3年生158名、2年生132名、1年生148名となっています。大学院に関しては、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は博士前期課程24名、博士後期課程6名となっています。

退職：小山鐵夫先生は平成15年10月をもって定年退職されました。現在高知県立牧野植物園園長としてご活躍をされています。別府輝彦先生は平成16年3月をもって日本大学生物資源科学部を定年退職され、現在、日本大



学生実験室（旧421.422実験室）の全景



教卓にあるAV機器コントロールパネル

学総合科学研究所教授としてご活躍をされています。学科の発展と学生の教育にご尽力をいただきました両先生に心より御礼を申し上げます。今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

昇格：本年4月1日付で内山寛先生（植物細胞学研究室）が助教授に昇格されました。岩淵範之先生（分子微生物学研究室）は本年度短期大学部農学科の専任講師として赴任されました。両先生の今後の更なるご活躍が期待されます。

新任：本年4月1日付で生命工学研究室に本学科の卒業生である高野英晃助手が着任されました。今後のご活躍が期待されます。

研究室の再配置：2年がかりの研究室の再配置が昨年の秋に完了いたしました。やっと落ち着いた環境で研究実験が再開されています。各研究室の所在についてですが、分子微生物学研究室と生体分子学研究室は4号館2階、核酸科学研究室、生体制御科学研究室、植物細胞学研究室、蛋白質科学研究室、動物細胞学研究室は4号館3階にあります。生命工学研究室は主に生命科学センターの2階で研究を行っているが、4号館2階にも研究室があります。

研究室の再配置に伴って、学生実験室のリフォームも行われ、AV機器が装備されました（写真）。また、学生実験のための準備室も設けられ、実験用の機器や器具などが置かれています。

卒業生の皆様、機会がございましたら、お誘い合わせのうえ、是非一新した応用生物科学の研究室と学生実験室を見学しにおいでください。きっと変貌した学部と学科の姿に驚かれると思います。

事務局より

昨年3月に実施したアンケート調査の結果に基づいて、応用生物科学科校友会総会は2～3年に一度開催することとなっています。事務局としては来年度の総会開催に向けて、今年度中にアンケート調査を実施し、会員の皆様方がどのような総会を望んでいるのか、校友会に対して何を期待しているのかなどについて把握していきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

既に会員の皆様方にはお知らせというかたちで校友会の由来、目的と現状について説明をさせていただきました。皆様のご理解をいただけたでしょうか。校友間の絆を深めるために、事務局では、今後とも、できる限り会員の皆様の疑問や質問に答え、要望にも応えていきたいと考えています。応用生物科学科校友会が発展するためには、会員の皆様方の積極的なご参加は不可欠であります。どうか校友会の運営や活動について多数のご提案をお寄せください。

最後に、住所変更、改姓、問合せ等ございましたら、お手数ですが、事務局にご連絡ください。（司馬 肇）

平成15年度校友会会計決算および平成16年度校友会会計予算

平成15年度日本大学生物資源科学部校友会会計決算

(収入の部)				
科目	目	予算	決算	差異
1.	前年度繰越金	5,381,615	5,381,615	0
2.	入会金	16,640,000	17,108,000	△468,000
3.	預金利息	5,000	36	4,964
4.	雑収入	3,385	0	3,385
収入合計		22,030,000	22,489,651	△459,651
(支出の部)				
科目	目	予算	決算	差異
1.	分会交付金	8,320,000	8,309,350	10,650
2.	経常費	8,470,000	7,006,015	1,463,985
1)	人件費	2,500,000	2,177,470	322,530
2)	本部分担金	470,000	470,000	0
3)	事務局運営費	800,000	656,871	143,129
4)	通信費	2,600,000	2,442,349	157,651
5)	会合費	1,000,000	139,273	860,727
6)	交際費	800,000	605,500	194,500
7)	交通費	300,000	514,552	△214,552
3.	事業費	3,600,000	2,548,222	1,051,778
1)	名簿編立金	0	0	0
2)	会報作成費	2,000,000	1,674,422	325,578
3)	会報委員会運営費	100,000	53,800	46,200
4)	名簿委員会運営費	100,000	0	100,000
5)	記念事業費	200,000	200,000	0
6)	名簿作成準備費	100,000	0	100,000
7)	準会員対応費	1,000,000	620,000	380,000
8)	会長賞記念品	100,000	0	100,000
9)	基金積立金	0	0	0
4.	予備費	1,640,000	0	1,640,000
当年度支出合計		22,030,000	17,863,587	4,166,413
5.	次年度繰越金	0	4,626,064	△4,626,064
支出合計		22,030,000	22,489,651	△459,651

平成16年度日本大学生物資源科学部校友会会計予算

(収入の部)				
科目	目	平成16年度	平成15年度	差異増減△
1.	前年度繰越金	4,626,064	5,381,615	△755,551
2.	入会金	23,400,000	16,640,000	6,760,000
3.	預金利息	1,000	5,000	△4,000
4.	雑収入	2,936	3,385	△449
収入合計		28,030,000	22,030,000	6,000,000
(支出の部)				
科目	目	平成16年度	平成15年度	差異増減△
1.	分会交付金	11,790,000	8,320,000	3,470,000
2.	経常費	9,170,000	8,470,000	700,000
1)	人件費	2,500,000	2,500,000	0
2)	本部分担金	470,000	470,000	0
3)	事務局運営費	800,000	800,000	0
4)	通信費	2,600,000	2,600,000	0
5)	会合費	1,000,000	1,000,000	0
6)	交際費	800,000	800,000	0
7)	交通費	1,000,000	300,000	700,000
3.	事業費	5,200,000	3,600,000	1,600,000
1)	名簿編立金	0	0	0
2)	会報作成費	2,000,000	2,000,000	0
3)	会報委員会運営費	100,000	100,000	0
4)	総務委員会運営費	100,000	100,000	0
5)	財務委員会運営費	100,000	0	100,000
6)	記念事業費	200,000	200,000	0
7)	名簿作成準備費	100,000	100,000	0
8)	準会員対応費	1,500,000	1,000,000	500,000
9)	会長賞記念品	100,000	100,000	0
10)	基金積立金	1,000,000	0	1,000,000
4.	予備費	1,870,000	1,640,000	230,000
支出合計		28,030,000	22,030,000	6,000,000

7月10日学部校友会総会で承認された校友会会計決算および予算を掲載しました。

平成16年度の校友会予算での変更点以下のようになります。

- 1) 収入の部の「入会金」の名称を「会費」としました。これは、本部よりの還付金が収入の柱になったことによります。
- 2) 会費収入が増加したのに伴い、「分会交付金」の増額、「基金積立金」を復活しました。
- 3) 事業費に校友会会則改正による「広報委員会運営費」、「総務委員会運営費」、「財務委員会運営費」を新たに設けました。

支部だより

宮城県支部設立なる

連絡先 〒981-3131
仙台市泉区七北田字町31
小野事務所 小野 隆
TEL: 022-372-4637
FAX: 022-374-8844
E-mail: takashi@enax.net

本年7月17日仙台市駅東口「仙台ガーデンパレス」にて、設立総会が開かれました。

来賓として学部校友会会長の茂澤 晃氏、学部校友会事務局長 本江一郎氏、そして、山形支部の副支部長 小松文嗣氏にご臨席を賜り、22名での和やかなスタートを致しました。

総会は発起人代表の小野が議長役となり、①支部役員選任について、②支部規約について、③支部役員選任について、を上程し、原案通りで承認をいただきました。



初めての役員就任は以下の通りです。

支部長 小野 隆（食品工学・昭和41年）
副支部長 千葉 達（畜産・昭和43年）
副支部長 野村勝彦（農学・昭和35年）
幹事 関 典大（農学・昭和49年）
幹事 鎌田雅敬（農芸化学・昭和52年）
幹事 田中啓雄（獣医・昭和51年）
幹事 小松 繁（畜産・昭和48年）
幹事 持丸 祐（食品経済・昭和60年）
幹事 武藤 正（林学・昭和28年）
幹事 飯塚晃朗（水産・昭和41年）
幹事 菊地龍雄（農業工学・昭和50年）
幹事 田代 裕（食品工学・昭和47年）
幹事 櫻田 昇（拓植・昭和47年）
幹事 朝比奈敬貴（応用生物・平成10年）

総会の後、第二部では、山形県支部副支部長の小松文嗣氏をスピーカーに迎え「校友会山形支部の活動状況について」を演題にして、ご指導をいただきました。

第三部の設立祝賀会では、参加された会員諸兄の熱意がほとばしり、今後の活動、運営が活発になるよう期待が込められ、楽しい一夜を過ごしました。

最後に日大節を全員で大きな声で歌い、盛会裡に終了し、散会となりました。

（小野 隆）

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433
山形市鳥居が丘4-55
日本大学山形高等学校内 池田卓郎
TEL: 023-641-6631
FAX: 023-641-6634
E-mail: t-ikeda@ymgt.hs.nihon-ac.jp

平成16年2月21日(土)上山温泉月岡ホテルで会員29名出席、本部より茂澤会長及び酒井健夫教授、地元からは日本大学山形高等学校坂野校長及び日本大学校友会山形県支部役員等の来賓をお迎えして、第12回山形県支部総会が開催されました。

総会は、議長に若手の黒坂治氏(平成元年、森林資源学科卒)を選出し、提案された会務報告、会計報告、収支予算(案)等が全て原案どおり可決決定されて終了しました。

総会終了後に毎年実施している各学科持ち回りの会員による講演が一巡したため、今年は、獣医学科酒井健夫教授にお願いし、BSE問題審議等で大変ご多忙の中、やり繰りして駆けつけていただきました。

演題は「なぜ発生するか動物と人の共通感染症」であったが、ご講演いただく段になり先生ご持参のパソコンと地元調達の液晶プロジェクターの接触が不能で映写出来ないハプニングがあり、急遽別の液晶プロジェクターを取り寄せることとなり、酒井教授には大変ご迷惑をお掛けしました。

例年出席者数の多くない獣医学科卒業会員も、今年は酒井教授のご講演とあって最も多く出席してくれました。

液晶プロジェクターが会場に届くまでの間、本部の茂澤会長及び日大山形高校の坂野校長から、時間繋ぎとして大変内容のあるお話を賜った。

懇親会は、来賓の工科系校友会会長長瀬健一山形県支部長から、支部の活動状況をお聞きし乾杯となりました。

各学年毎の自己紹介は毎年実施してはいるものの毎年同じ事は無く、坂野校長も仲間に入っのスピーチもあったりして盛り上がりしました。

最後に、参加者全員による校歌の斉唱で宴が閉じられました。(小松 文嗣)

山梨県支部の近況

連絡先 〒405-0017
山梨市下神内川187-1
支部長 小越 昭雄
TEL: 0553-22-2400

山梨県支部は、平成15年10月11日(土)午後4時より、JR中央本線石和温泉駅前通り「旅館」糸柳において、県支部理事会を開き、平成17年10月に開催予定の県支部総会の内容について協議致しました。特に次回支部総会



山梨県支部理事会に出席された方々

は支部創立20周年の記念総会となりますので大学側からの来賓と多くの会員の参加をえて、盛大な総会になりますようお願いしております。大学のご指導と情報を頂きながら、県支部の運営と活動に会員の力を結集して行きたいと考えております。又、議題に役員改選があります。支部長から理事まで大幅な改選となりますが新支部長を中心として頑張ることを衷心よりお願い致します。

(小越 昭雄)

神奈川・生物資源科学部部会

連絡先 〒252-8510
藤沢市亀井野1866
日本大学短期大学部 環境生態学研究室
事務局長 浅野 紘臣
TEL: 0466-84-3747
E-mail: asano@brs.nihon-u.ac.jp

会長就任あいさつ

平成15年度総会において会長に就任致しました秋元でございます。

私は初代会長佐々木先輩よりお誘いを受けて、この会の創設に参画し、役員一員として運営に参加して参りました。初期の頃のような勢いはなく、少々停滞を致している状態です。このような難しい次期に2代会長を引き受けられ、会の隆盛のために尽力されました高坂先輩には会を代表して心より感謝申し上げます。

校友の心をどのようにとらえるか、答えの見つからない状態ですが、私は学部存在県の校友会としては、維持し継続をしていくことが、最も大事な存在意義ではないかと考えております。

会員の皆様方のご協力を頂き若き世代の会員の方々に、お渡し出来ますように運営したいと思っております。

最後に会員の皆様のご健勝とご幸運をお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。(会長・秋元美治)



平成15年度 総会・懇親会(右端が会長)

高知県支部

連絡先 〒780-0084
高知市南御座9-19
事務局 前川 卓也
TEL: 088-880-0538
E-mail: maekawa@mb.infor-yoma.or.jp

去る8月28日(土)高知市の料亭「葉山」において、第16回高知県支部が開催されました。台風16号接近のため残念ながら当日参加できなかった会員も数名ありましたが、ご来賓の茂澤本部校友会会長、農芸化学科の隅田助教授、特別会員の



高坂鉄雄先生、神奈川県支部よりご参加の寺地氏を県内各地から集まった校友が囲み18名の出席者となりました。

総会は中西支部会長挨拶、平成15年度事業および収支決算報告、平成16年度活動方針および予算と滞りなく進み、引き続いてご来賓からのお祝いのことを頂戴致しました。茂澤会長からは「改革を進めるには謙虚な有言実行がふさわしい」と3年目となった本部校友会改革についてのお話。隅田先生にはスライドをご持参いただき現在の大学組織・設備・活動についてわかり易く詳しくご紹介いただきました。高坂先生からは今回高知県立牧野植物園を訪れ小山鐵夫先生とお会いして、植物を専攻する学生には是非この植物園を見てほしいと感じ、本学と牧野植物園や高知大学との連携の可能性を提案していきいたのお話をいただきました。

続いて長崎収夫前校友会高知県支部会長の乾杯で懇親会が開催されました。隅田先生は高知県のご出身で同じ研究室卒業の会員も数人参加しており、賑やかにあちこちで笑いの輪が出来ました。そこそこお酒はあったところで来賓の寺地氏を含めた全員で楽しく自己紹介などもおこないました。

最後に全員で校歌を斉唱し、岡林支部理事の音頭で日本大学にエールを送ってお開きとなりました。(前川 卓也)

校 友 だ よ り

モノ創り研究の楽しさ

平成4年 大学院農学研究科農芸化学専攻修了
大森 隆司

私は平成4年、(株)資生堂に総合職(研究職)として入社いたしました。資生堂には約2万人の従業員がおり、その中で国内外の研究所には約500人の研究員がいます。資生堂は化粧品メーカーですが、医薬品、食品等の各種事業も行なっているため研究員には化学、生物、薬学、理工学等、様々な分野の出身者がおります。入社当時は製品研究所という部署に配属され、そこでは洗浄料、制汗剤、乳液等の製品化研究を約6年間行っていました。はじめて自分が処方設計した製品がCM

に流れたときや、市場に出たときの感動は今でも忘れられません。そして1998年からは基礎研究部門に異動し、現在はマテリアルサイエンス研究センター・界面科学研究所に所属し、主に新素材・新基剤の開発や界面科学の基礎研究に従事しております。学部、大学院時代での研究室では微生物や酵素に関連する生物学的研究を行っていましたが、資生堂では化学的研究が中心となっております。学生時代と異なる分野の研究となるため戸惑いも多々ありますが、農芸化学というその名の通り生物・化学の両方学ぶことが出来たおかげで視野を広げることができ、そのため様々な研究をしても柔軟に対応できていると思っています。

研究員は毎年研究テーマを設定し、そのアウトプットを求められますので厳しい面もありますが、その分やり遂げたときの充実感は相当なものです。最近私は資生堂オリジナル開発素材として、「アクアインプール（化学名：ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンランダム共重合体ジメチルエーテル）」という新規成分の分子設計や、その応用開発に成功しました。その結果化粧水や美容液等のスキンケア製品や、口紅をはじめとしたメーキャップ製品等で幅広く配合されています。また本素材については現在50を超える特許を出願しています。このような研究成果は製品応用、特許出願以外にも、国内・海外での学会発表、そしてセミナー講師等でアピールしています。

化粧品のような「モノ創り」は、研究すればするほど非常に興味深い分野であると思います。今後生物資源科学部の後輩達と一緒に「モノ創り」できることを祈っています。

「牛乳の漬物」＝「チーズ」？

昭和41年 食品製造工学科卒業

栢 英彦

チーズは牛乳を原料とする保存食品の一つです。牛乳の漬物がチーズです。牛乳は栄養価が高く、微生物にとって格好のエサです。保存性が効かないのです。保存性を増すためには水分を減らせばよいのです。牛乳には乳由来の乳酸菌があります。温度条件が整えば増殖し、乳酸を産生し、乳中の蛋白質が凝固します。それがヨーグルトです。それから人

為的に水分を除いたのがチーズです。蛋白質が凝固したものであるという意味でチーズ、ケーゼと言われます。それを型に入れたので、フランスではフロマージュと言います。

乳酸菌の働きと食塩を加えることで美味しさ（旨さ）や保存性が増します。原料が野菜かミルクの違いです。保存期間の長短に合わせ食べることが出来るのがチーズですし、漬物です。漬物ですと素材の新鮮な香りや色合いと歯触りを、時間をかけた古漬物は風味が増し重厚な味わいを楽しめます。

世界には牛乳だけでなくヤギ、ヒツジ、水牛の乳で作られたチーズがあります。日本には世界の食材が手に入る不思議な国です。従って、多くの種類のチーズを購入することが出来ます。チーズを介して、各国のチーズを、食卓で、新たな出会いに感謝し、素敵な仲間と楽しんで頂けたらと思います。チーズ文化の普及活動に頑張っている今日この頃です。

再生医療への貢献

平成9年度 応用生物科学科卒業

平成14年度 博士（生物資源科学）取得

小林 護

先天的・後天的要因による組織欠損に対する有効な治療法として期待される再生医療。「再生医療」をキーワードにインターネット検索しますと、実に320000件ものページが該当し、各方面からの注目度の高さを伺い知ることが出来ます。

私は、佐藤嘉兵教授の下で6年間、生殖・発生学を学び、現在は東邦大学医学部 SRL代

謝病再生医学講座助手として再生医療分野の研究に携わっております。それまで学んだ生殖・発生学から再生医学という全く異なるフィールドへ足を踏み入れ、初めは戸惑うこともありましたが、ある細胞を別の細胞に性質を転換（分化）させ、移植用細胞として用いるには、細胞の起源や発生の過程を知り、理解することが重要であるため、再生医学と発生学を切り離して考えることができません。また発生学のみならず、免疫学や遺伝子工学、タンパク質工学等の知識も要求されるため、学生時代に学んだ知識が役に立つ場面も多々あります。そして未だに、生化学辞典と医科生理学展望にはお世話になっております。

私の講座では分娩時に廃棄される羊膜に着目し、羊膜より多分化能細胞を分離・培養し、新規移植用細胞として再生医療へ利用することをコンセプトに研究を行っております。再生医療研究は、日々進歩しており、新しい情報・知識に追いつくのが大変なのも事実ですが、羊膜を利用する試みは世界的にも類を見ず、自分の研究に対して非常にやり甲斐を感じております。今後も、自分の研究を通して再生医療への貢献ができればと思っております。

最後になりましたが、応用生物科学科教員の皆様と卒業生の皆様が益々ご発展、ご活躍されますことをお祈り申し上げます。



日本大学生物資源科学部校友会 役員・事務局名簿

名誉会長	佐々木 彦	（農化）
副会長	長茂 守	（植物）
代表幹事	中内 秀	（獣医）
幹事	赤村 敏	（動物）
	村山 進	（食経）
	隈田 敏	（森林）
	関内 具	（海洋）
	内田 具	（環工）
	富田 具	（食科）
	福井 具	（国際）
	大石 具	（短農）
	江江 具	（短生）
	遠藤 具	（短生）
	山本 具	（応生）
	谷本 具	（植物）
	勝本 具	（農化）
	長野 具	（動物）
	田中 具	（動物）
	中村 具	（国際）
	藤島 具	（植物）
	宮島 具	（農化）
	島田 具	（獣医）
	宮田 具	（獣医）
	宮田 具	（食経）
	宮田 具	（食経）
	宮田 具	（森林）

逸朗	（森林）
朗四郎	（海洋）
喜好	（海洋）
昌二	（環工）
公三	（環工）
英彦	（食科）
章彦	（食科）
永川	（国際）
木治	（短農）
樫男	（短農）
渡邊	（短生）
飯塚	（短生）
長崎	（応生）
小江	（応生）
江崎	（応生）
山根	（農化）
山本	（食科）
江田	（食経）
良一	（植物）
丹羽	（森林）
千野	（森林）
木村	（環工）
	（動物）
	（食科）
	（動物）

会報編集委員

農学友会	井上 弘	明
紫角会	荻原 孝	淳
満喜葉会	椎橋 裕	実
いもづる会	山室 実	彦
あすなろ会	島田 則	治
桜水会	宮田 治	

工学会	川阿 啓	文
F T 会	阿緒 行	申
拓友会	緒寺 輝	広
むつあい会	蒲原 義	雄
生活環境学	蒲原 義	明
科校友会	佐藤 嘉	兵
応用生物科		
学科学友会		

発行所

日本大学生物資源科学部 校友会

〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野1866

TEL FAX 0466-84-3799

E-mail: koyukai@bri.nihon-u.ac.jp

編集・発行 会報編集委員会 委員長 富澤 寿樹

印刷所 株式会社 廣清堂

TEL 03-5484-8811 FAX 03-5484-8812